

高等部 生活支援	学級	自分も相手も気持ちよく過ごそう
-------------	----	-----------------

## 1. 題材について

「学級」は、原則週1回学級単位で行う授業である。学級集団としての活動を中心に、高校生として必要な自立心や判断力、高校生にふさわしい対人関係を育み、更に将来、社会人として豊かな生活をしていくための見通しを育てる、などを主なねらいとしている。「学級」は、①クラス運営や役割活動、②レクリエーション活動、③性と対人関係に関する指導、④その他行事などに関連したクラス単位の総合的な学習等、学級の実態に応じた青年期としての生活を充実させる内容を扱う。本題材は上記③④に当たる取り組みである。

本校では、「特別の教科 道徳」を教育課程に位置付けておらず、生活の中での具体的な場面や活動を通じて物事を指導することが有効であるという知的障害の障害特性を踏まえ、教科別の指導、領域別の指導、各教科等を合わせた指導等、教育課程全体を通じた道徳教育を行っている。そこで、知的障害のある生徒にとっての道徳教育の更なる可能性を探り、主体的・協働的な学びを育むための学習活動や教材教具の開発を目指して本題材を設定した。本題材は本校の「道徳教育全体計画」の以下の内容と関連して構成した。

### 高等部の道徳教育の指導目標

- 望ましい生活習慣を身に付け、健康の増進を図る意識をもつ。(自分自身に関すること)
- 他者のことを考えて、望ましい人間関係をつくる。(人との関わりに関すること)
- 勤労の意義が分かり、合わせて公共意識、社会的規範を身に付ける。(集団や社会との関わりに関すること)
- 生命がかけがえのないものであることが分かり、生命を尊重する。(生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること)

高2の学級目標の1つに「自分も相手も気持ちよく過ごそう」があるが、生徒たちは普段から友達や教員に対する言葉遣いや態度に気を付けながら生活している様子が見られる。しかし、人間関係を築くための基礎基本である挨拶に課題を持っている生徒が多く、心と形の伴った挨拶ができる生徒が少ないのが現状である。挨拶をしなければいけない理由について十分に理解していないが良い挨拶をすることが出来る生徒や、正しい挨拶の方法は理解しているにも関わらず勇気が足らずに声が小さくなる生徒、相手が気持ち良くなるから挨拶をすることを理解しているが実感が伴っていない生徒など、個々に挨拶に関する課題は異なっている。そのため本学級の生徒に必要なのは、1)なぜ挨拶をするのかその理由について考えること、2)実際に実践するための自信をつけること、の2点であると考えた。

## 2. 題材の目標

- 礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接しようとする態度を涵養する。

## 3. 指導計画（全2時間）

時期	時間数	学習活動	指導内容
9/20	1h	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常で使用する挨拶の言葉の想起</li> <li>・挨拶をする理由についての話し合い</li> <li>・ロールプレイ「おはようございます」</li> </ul>	G1：日常の中の挨拶の言葉について確認し、正しい方法で挨拶をする。 G2：挨拶には心と形が伴っていなければいけないことに気づく。
9/27 (本時)	1h	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホーム見学の振り返り</li> <li>・「あいさつ表」の作成</li> <li>・「あいさつ調査」の実施</li> </ul>	G1：日常の中の挨拶の言葉に親しみ、正しい方法で挨拶をする。 G2：挨拶をされた人の気持ちに着目し、挨拶をされるとポジティブな気持ちになることに気づく。

\*9/26には進路学習の一環として、「グループホーム見学」を行った。

## 4. 高等部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントとの関わり

### ①【必然性がある目標の設定】

- ・対象学級は、挨拶が課題となる生徒が多い。これまで生徒たちは学校内だけではなく、現場実習などを経験し学校外においても挨拶が課題であると指摘されてきた。そのため、グループホーム見学や現場実習などの進路の学習と関連付けながら挨拶を授業で取り上げることで、生徒にとって当事者意識を持ちやすいのではないかと考えた。

### ②【仲間と共に活動する機会】

- ・挨拶に関して、生徒達同士で実体験をもとに話し合ったり、授業内で簡単な実験を行いその結果について考え意見を交換したりすることによって、挨拶に対してより多面的・多角的に捉えることができるのではないかと考えた。そのため、課題別にグループを分けたり、実験の内容によってグループを分けたりして、生徒間に活動内容の違いを敢えて生み出し、その違いをもとに話し合いが展開できるようにした。

## 5. 本時の目標

○挨拶をする相手の気持ちなどに着目し、気持ちの良い挨拶を心掛け、人と明るく接しようとする。

## 6. 授業の展開

学習活動	指導内容	指導上の留意点
○始まりの挨拶。 ○前時までの振り返りと本時の学習内容を知る。	○姿勢を正し挨拶をする。 ○自分も相手も気持ちよく過ごすためには何が必要か考える。 ○自分達やグループホームの方々の挨拶について振り返る。 ○挨拶をする時のポイントについて考える。 ○本時は“挨拶をされた相手の気持ち”について学習することを知らせる。	○日直が号令をする。 ○生徒が挨拶を自分事として捉えることができるようグループホーム見学の際の動画を流す。【ポイント①】 ○ポイントが生徒から出てこない場合は、生徒に挨拶の実演をしてもらう。 ○自分と相手のシルエットを黒板に掲示し、本時は相手に着目することを明確に伝える。
<G1> ○『挨拶の歌』を歌う。 ○正しい挨拶の方法を練習する。 ○「あいさつ表」を製作する。	○楽しい雰囲気の中で、挨拶の言葉を発する。 ○相手を見る、大きな声、お辞儀などのポイントに気をつけ挨拶の練習をする。 ○場面絵に応じた挨拶の言葉を選ぶ。 ○挨拶の言葉をなぞったり、塗ったりすることを通して、挨拶の言葉に親しむ。	○フレキシブルホールに移動する。 ○必要に応じて動画で振り返り、よい点、改善点をSTが生徒に伝える。【ポイント②】 ○3人で役割分担をしながら製作に取り組む。
<G2> ○挨拶をしなければならない理由について話し合う。 ○「挨拶された人は気持ち良くなるのか」について話し合う。 ○2つのグループ（挨拶するGと挨拶しないG）に分かれ「あいさつ調査」をする。	○“挨拶をすると自分も相手も気持ち良くなる”など前時に持ってきた意見を確認する。 ○相手の気持ちは見えないから、分からないことに気づく。 ○挨拶をすると相手がどんな気持ちになるのか、挨拶をしないと相手がどんな気持ちになるのか知る。 ○2グループの結果を比較し、挨拶をされた人はポジティブな気持ち（嬉しい、など）、挨拶をされなかった人はネガティブな気持ち（悲しい、など）になることに気づく。	○高2教室で活動する。 ○前時のワークシートを配る。 ○相手の気持ちは見えないから分からないと生徒が実感できるよう、生徒の発言に対し「本当？」などと適宜切り返す。 ○各グループ1台ずつタブレットを持ち、教室外に出掛け活動をする。 ○グループ内で動画を撮る人、挨拶をする人／しない人、タブレットで気持ちを尋ねる人に分けて活動する。【ポイント②】 ○2つのグループの結果は棒グラフで示し、結果を比較しやすくする。【ポイント②】
○グループ活動（G1とG2）の発表を行う。 ○終わりの挨拶。	○お互いのグループの活動内容を知り、挨拶をすると相手がポジティブな気持ちになること、今後の現場実習に向けた大切な挨拶の言葉がわかる。 ○これまでの学習経験を踏まえ、一人一人がより良しと考える挨拶をする。	○MT、STが支援しながらも生徒たちが主役となってグループの発表をする。【ポイント②】 ○挨拶をする前に、「これまで学習してきたことを思い出して、これから自分はこんな挨拶をしてきたいという挨拶をしてください。」と伝える。

## 7. まとめ・考察

今回の授業では「生活テーマ」（挨拶）を扱ったが、前日にグループホーム見学で生徒たち自身が挨拶をするという場面を体験したからこそ、挨拶に対して課題意識を持っている姿（自分たちが挨拶をしている動画を見たくないという反応が多数）が多くみられた。また本授業では、多くの生徒が簡単な実験を通して、挨拶をすると相手がポジティブな気持ちになること、挨拶をしないと相手がネガティブな気持ちになることに気づくことができた。ここでポイントとなったのが、いわゆる読み物資料などの自分達とは“遠い”ものを元にするのではなく、自分たちで行った実験のデータを元に話し合いをすることができたことである。共通の実験のデータを元に生徒達は自分の考えを持ち、話し合いを展開することができた。さらに、実験のグループをその内容によって2つに分けたため、挨拶というものを一方向からだけではなく多方向から捉えることができたようであった。